

令和8年度 深川学区まちづくり協議会 事業計画書

1 今年度の目標

・交流推進事業を引き続き実施することにより、地域住民の交流の場としてさらなる活性化を目指す。
・学区内の歴史、史跡等についても情報発信すべく、地域住民が見やすい、理解しやすいホームページ作りに努力する。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	深川学区における地域交流推進事業	(5)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	深川学区まちづくり協議会事務所	
(3) 参加者数	770 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 深川学区まちづくり協議会	
4 取組内容	令和6年度から開始した地域住民のふれあい・交流の場である地域カフェ及び地域食堂を令和8年度も引き続き実施する。 また、地域住民を対象に、健康、趣味、教養などに関する市民講座を開催する。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 少子高齢化の進展に加えて単身世帯が増加する一方で、労働環境や生活環境も著しく変化しており、これまで地域が有していた相互扶助などの機能が低下しつつある。こうしたことを踏まえ、まちづくり協議会の事務所(別称:ふかわのうちに)が、地域コミュニティ活性化の場として、子どもから高齢者までの地域住民が自然に立ち寄り、そして、ふれあいの場となるような事業(地域カフェ、地域食堂等)を継続実施する。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 3の「取組内容」の実施により、深川地区での住民間の地域交流をより一層推進でき、地域コミュニティの活性化につながる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	深川学区のまちづくり活性化推進事業	(5)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	深川学区まちづくり協議会事務所	
(3) 参加者数	10 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 深川学区まちづくり協議会	
4 取組内容	深川学区のまちづくりを進めていくうえでは、J R 芸備線の利用促進、利便性向上のための道路整備、高陽体育館の建替えと公共施設の集約化、下深川駅北側民有地（企業有地）に対する地域の対応などの課題がある。 こうした課題へ取り組んでいくため、これまで、行政等と協力して取りまとめてきたまちづくりプランや高陽・白木地域活性化プランをもとに、世代を越えて意見交換を行うとともに課題に係る認識を共有し、深川学区のまちづくりをより一層進めていく。 このため、上記まちづくり活性化プラン等に関して、深川地区のさらなる具体化について協議していく。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 上記3に示す課題解決に向けて、地域住民の意見集約等を図り、地域住民のまちづくりに係る認識を共有し、深川学区のまちづくりを発展させるための一助とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 深川学区に居住する住民の課題に対する共通認識、意見集約をすることで、地域の住民一人ひとりが自分自身の問題として捉えて、解決策を考えようとする手段の一つになることに加え、議論を通して地域の一体感がより高まることが期待できる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	深川学区内に所在する史跡めぐり整備事業	(5)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	深川学区まちづくり協議会事務所及び学区内史跡立地場所	
(3) 参加者数	10 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 深川学区まちづくり協議会	
4 取組内容	深川学区内に所在する史跡等については、これまで、地域住民がその数、立地の経緯及び歴史等を知る機会に恵まれていない状況にあった。深川学区内にも相応の史跡等が所在しており、なかには重要文化財として整理されているものもある。 このため、これらの貴重な史跡を住民に周知していくため、順次、史跡の説明看板、周回ルートを整備する。 こうした取り組みにより、地域住民が史跡へ親しみを持ち、地域への誇りや愛着を醸成できるものとなるよう事業を進めていく。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 深川の歴史、史跡等を広く住民に周知し、地域への愛着、関心をより一層持ってもらい、特に、将来深川の発展の担い手となる子ども達の学習の場として利用できる仕組みとなるよう看板等の整備をしていく。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 深川学区に居住する住民が、地域の歴史等を知るための手段として、歴史文化の魅力発信をすることができ、さらに地域への愛着、関心、誇りを持つための一助になる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	深川学区高齢者健康増進対策事業	(5)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 <u>1</u> 日 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月 <u>31</u> 日	
(2) 実施場所	広島市安佐北区深川4丁目(樽原地区)	
(3) 参加者数	<u>490</u> 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>深川学区老人クラブ連合会</u>	
4 取組内容	・グランドゴルフ大会の開催。 ・会員による運動広場の利用に加えて、地域住民も含めた多様な利用を見据え、老人運動広場の適正管理やスポーツ用具の充実を図る。 ・広場管理の清掃道具や機材、スポーツ用具、これらを保管するための用具入れ(倉庫)を整備する。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 高齢者の地域交流機会の減少という課題に対し、社会参加の機会創出を目的とし、学区内外の高齢者の健康増進を目指す。また、老人クラブの会員はもとより、非会員を含めた地域住民が相互の親睦を図り、生きがいつくりにつなげる。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 高齢者の外出や交流の機会が増え、閉じこもり予防や健康増進につながる。老人クラブ会員だけでなく非会員も参加することで、新たなつながりや親睦が深まり、地域コミュニティの活性化が期待できる。老人運動広場の維持管理を円滑に進めるうえで最低限必要な条件整備ができ、高齢者が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせる環境づくりに寄与する。	

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	深川学区まちづくり協議会における広報の実施事業	(5)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)～(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 <u>1</u> 日 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月 <u>31</u> 日	
(2) 実施場所	深川学区まちづくり協議会	
(3) 参加者数	<u>10</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>深川学区まちづくり協議会</u>	
4 取組内容	深川学区まちづくり協議会が実施する事業について、地域住民に周知し意識啓発に努める。 現在、事業として具体化しているのは、地域カフェ、地域食堂、市民講座、さらには、地域の課題である J R 芸備線の利用促進とまちづくりへの取組などについて、学区内へ広報・周知し、地域住民の関心・意識を高めていく。(自治会の回覧板も合わせて活用する。) そのため、広報の 1 つ手段として、令和 7 年度に立ち上げ、運用しているホームページを充実させていく。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域への帰属意識が薄くなっている住民意識を高めていくため、まちづくり協議会で実施する事業を地域住民に周知し、また、地域の課題解決に向け、住民参加型のまちづくりを進めていく。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 住民に対して地域の課題等をホームページ上で直接周知することができ、住民一人ひとりが自分自身の問題として捉えて、解決策を考えようとする手段の一つになる。	

3 自主財源で実施する事業

特になし